

平成28年度 地域連携事業報告書

地域教育実践研究センター



学校法人福原学園
九州女子大学・九州女子短期大学

目 次

第1章 大学における地域連携について

| | |
|----------------------|---|
| 1. 大学が地域連携する意味 | 2 |
| 2. 組織と業務内容 | 3 |
| (1) 組織 | |
| (2) 業務内容 | |
| (3) 外部評価 | |
| 3. 平成28年度の事業実績 | 4 |

第2章 平成28年度の地域連携事業

| | |
|------------------------------------|----|
| 1. 芦屋町との包括的連携事業 | 6 |
| (1) さわらサミット推進プロジェクト | |
| (2) 芦屋町課題発見プログラム | |
| (3) 壁面構成プロジェクト | |
| (4) 地域交流サロンにおける公開講座(硬筆教室) | |
| 2. 北九州商工会議所との連携事業 | 10 |
| (1) 文系インターンシップ事業 | |
| (2) 課題解決型インターンシップ事業 | |
| 3. 北九州市との連携事業 | 12 |
| (1) 放課後児童クラブからの要望事項 | |
| (2) 公開講座の実施内容 | |
| 4. 学生ボランティア事業 | 22 |
| (1) グリーンティーチャー | |
| (2) その他のボランティア | |
| 5. 先進事例の視察 | 23 |
| 6. その他の地域連携諸事業 | 23 |
| (1) 北九州・下関まなびとびあ「低学年向けプログラムWG」への参加 | |
| (2) 折尾商連との意見交換会 | |
| (3) 北九州ゆめみらいワークへの出展 | |

第3章 学外実習・介護等体験および教員免許状更新講習等

| | |
|---|----|
| 1. 平成28年度学外実習・介護等体験の実績 | 24 |
| 2. 教員免許状更新講習の受講者推移(平成21年度～平成28年度) | 25 |
| 3. 平成29年度教員免許状更新講習の開設予定講座(8/5～8/10) | 25 |

参考資料

| | |
|--------------------------------|----|
| 1. 地域教育実践研究センターの委員会等年間実績 | 26 |
| 2. 地域教育実践研究センター外部評価委員会報告 | 27 |
| (1) 外部評価委員会の構成員 | |
| (2) 学外委員の意見 | |

ボランティア等書式

1. 登録票
2. 出勤簿
3. 活動日誌

1. 大学が地域連携する意味

本学は、「地域に根差した実践教育を展開する大学」として、これまで取り組んできた教育・研究を地域社会の発展に資するため、平成27年6月1日に地域教育実践研究センターを設置した。

地域教育実践研究センターでは、学部・学科、および教員個々が実施してきた地域との関わりについての実態調査や地域が抱える課題や要望等を把握のうえ、「学生の質保証の強化」、「大学の教育・研究機能の活用」および「地域社会との共生」の3本柱を軸として、地域連携事業の在り方を検討し、本学の地域貢献(型)による大学創りに取り組む。

学生の質保証の強化

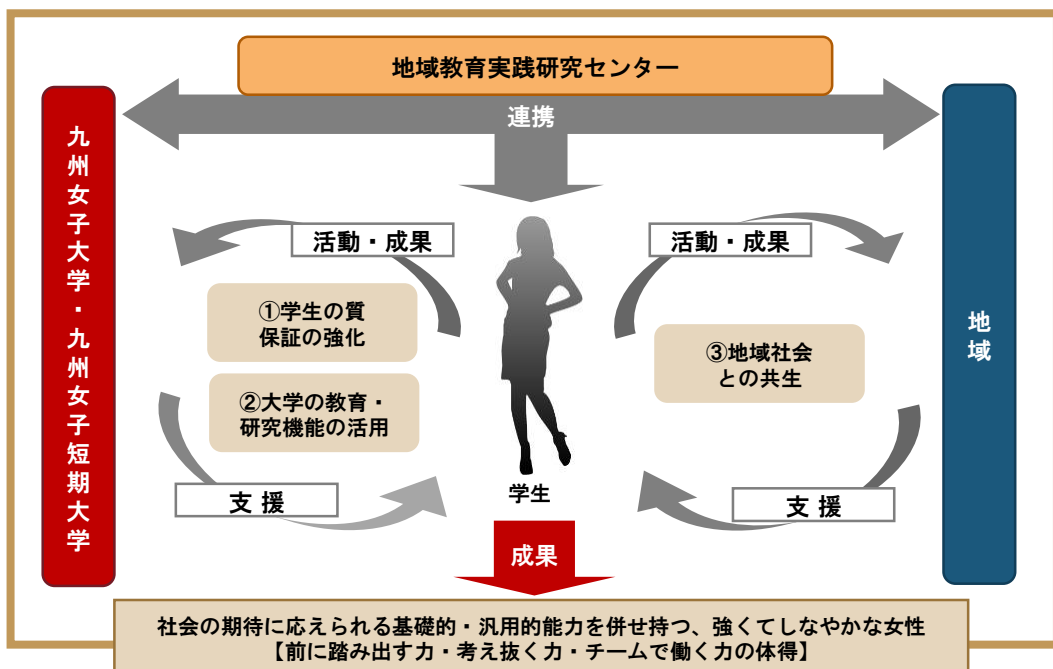
- ・地域課題(ニーズ)と大学資源(シーズ)を把握し、地域の課題を解決するため、学生ボランティアの育成を実践するとともに、学生の実学的教育を実践する。また、学生自身の研究テーマを設定して臨地研究を行うことにより、学生の研究論文に繋げていく。

大学の教育・研究機能の活用

- ・地域課題の現状調査を行い、データを分析し、これに対応する教育プログラムを作成する。また、教員による地域への出前型講座等を学生ボランティアと実践し、事業評価を行う。将来的には、「地(知)の拠点」として地域(自治体・企業等)と地域課題を解決する補助事業や共同研究の実施も視野に入れる。

地域社会との共生

- ・本学と自治体が組織的・実質的に協力し、地域課題と大学資源のマッチングにより、地域と大学が必要と考える取り組みを実践することで、地域との共生を実現させる。



2. 組織と業務内容

(1) 組織

地域教育実践研究センターの適正な管理運営を図るため、「地域教育実践研究センター運営委員会」（以下、「運営委員会」）を設置している。運営委員会は、センター所長、センター副所長、教務部長、学生部長、事務局長、大学・短大の各学部等から学長が推薦する教育職員、その他学長が必要と認めた職員で組織している。組織的に事業に取り組むため、事業案件を運営委員会で審議・決定し、本学の評議会に審議事項を上申している。また、事務を所管するのは、センター所長、センター副所長、事務職員が行う。

さらに、地域教育実践研究センターが各学科・専攻と十分に連携し、連携事業の企画内容をより詳細に検討するため、今年度、運営委員会の下に「地域活動推進ワーキンググループ」（以下、「地域活動推進WG」）を新たに設置した。

(2) 業務内容

地域教育実践研究センターは、以下の業務を実践・研究するため、学科、個人単位で実施していた地域連携事業の一元化を図るとともに、外部からの依頼に関する窓口としての機能も有する。

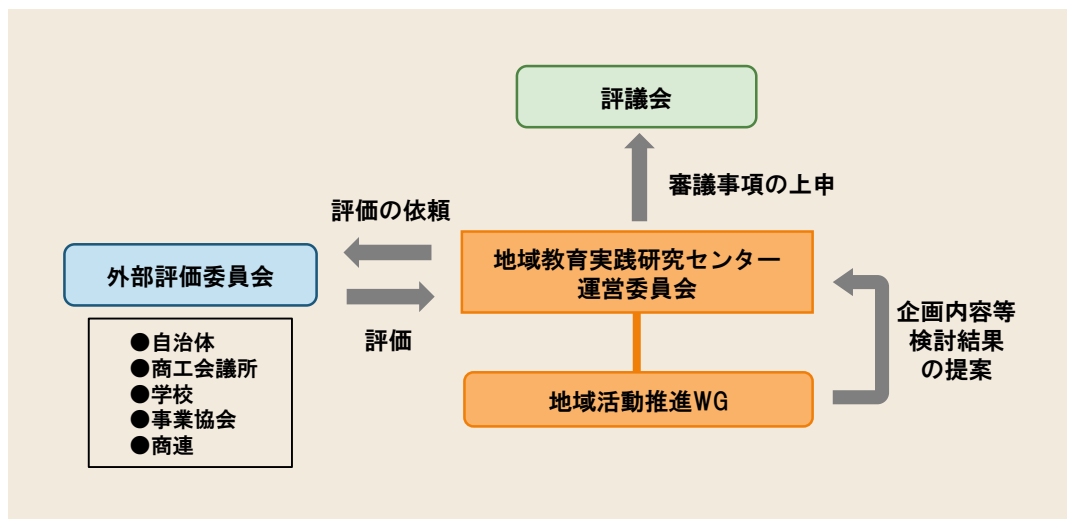
また、地域連携事業については、運営委員会の検討を踏まえ、各学部等から選出された運営委員により、学科会議等において検討内容の共有に努めることとしている。

地域教育実践研究センターの業務内容

- ①地域教育実践研究活動に関する学内情報の一元管理に関すること
- ②地域教育実践研究活動の学内外への広報ならびに情報の提供に関すること
- ③地域教育実践研究活動に関する対外的な窓口機能に関すること
- ④地域教育実践研究活動の教育実践プログラムおよび研究プロジェクトに関すること
- ⑤地域教育実践研究活動に関する連絡調整に関すること
- ⑥学校インターンシップおよび学校ボランティアに関すること
- ⑦学外実習および介護等体験に関すること
- ⑧教員免許状更新講習に関すること
- ⑨その他地域教育実践研究活動に関すること

(3) 外部評価

地域教育実践研究センターの取り組みについて、学外有識者による評価を行うことで自己点検・評価活動に反映させ、客観性・公平性を担保するため、外部評価機関として「地域教育実践研究センター外部評価委員会」（以下、「外部評価委員会」）を新たに設置した(P27参照)。



3. 平成28年度の事業実績

| | 事業 | 概要 |
|---|----------------|--|
| 1 | 芦屋町との包括的連携事業 | <p>実践教育の場で社会の期待に応えられる学生の育成、および芦屋町の地域課題解決のため、包括協定を締結した(H28.3.29)。本協定に基づき、9回の連携会議を通じて以下の事業を実施した。</p> <p>(1) さわらサミット推進プロジェクト 芦屋町では、特産品の一つである鯖を使った料理開発・活用を通じ、芦屋町のブランド化に取り組んでいる。この施策として、現在のご当地グルメの時流を取り込み、グランプリ形式のイベント「さわらサミット」が開催された。本学は、以下の①から⑥のとおり芦屋町と連携し、「さわらサミット」の運営に携わった(2/25、2/26)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①本学教員によるさわらサミットロゴマークのデザイン ②学生のさわらサミット実行委員会の参加 ③学術パネル(食文化・歴史)の作成および展示 ④保育園児のリズムダンスパフォーマンスの振り付け ⑤書道パフォーマンス・ダンスパフォーマンス・ドレスコレクションの実施 ⑥協力団体としてメニュー(さわら巻き)の来店 <p>●派遣人数：学生46人/教職員16人 合計62人</p> <p>(2) 芦屋町課題発見プログラム 人間生活学科のカリキュラムの中で、社会で必要となる力を学生に身につけさせるため、芦屋町をフィールドに課題発見プログラムを実施した。本プログラムは、アクティブラーニングを中心に構成されており、ワークショップ、特にジグソー学習法によるグループ活動等を実施した。さらに、学習成果を芦屋町に報告した。</p> <p>(3) 壁面構成プロジェクト 芦屋町活性化事業の一策として、芦屋町をフィールドに合同プロジェクトを企画した。芦屋町内を担当教員、地域教育実践研究センター所長、職員、および芦屋町の職員で視察した。この視察結果から、担当教員が芦屋の施設を活用した活性化案、および施設のリメイク案等を提案した。</p> <p>(4) 地域交流サロンにおける公開講座(硬筆教室) 芦屋町の高齢者が集う「地域交流サロン」において、本学の教員による公開講座(硬筆教室)を実施した(12/5)。 ●参加人数：12人</p> |
| 2 | 北九州商工会議所との連携事業 | <p>企業と個別に実施してきた地域連携をより効果的に行い、学生の地元就職を促す等、地域全体の活性化に取り組むため、北九州商工会議所と包括的な連携協定を締結した(6/7)。 平成28年度については、「文系インターンシップ事業」、および「課題解決型インターンシップ事業」を実施した。</p> <p>(1) 文系インターンシップ事業 文系学生を対象に地元中小企業の魅力を発信するため、北九州商工会議所と北九州市が市内の大学や短期大学と連携し、地元企業における就業体験を地方創生事業として実施した。本学からは、以下のとおり学生を派遣した。 派遣先企業(抜粋)：(株)ルネ/八幡ロイヤルホテル/小倉ターミナルビル(株) 等 ●派遣学生数：夏季14人/春季12人 計26人</p> <p>(2) 課題解決型インターンシップ事業 インターンシップ環境の充実を図るため、北九州商工会議所が企画した地元中小企業に配布する「外国人留学生採用支援ハンドブック」の素案作成に市内の学生が多数参加した。本学からは、以下のとおり学生を派遣した。 ●派遣学生数：2人</p> |
| 3 | 北九州市との連携事業 | <p>本学と北九州市(子ども家庭局)で放課後児童クラブの振興を図るため、クラブの指導員等を対象に本学の教員が以下のとおり公開講座を実施した。</p> <p>(1) 領域①生活：発達障害 対象：けやき児童クラブ(2/21) ●参加人数：13人</p> <p>(2) 領域③活動・行事：ダンス・手遊び 対象：曾根東校区放課後児童クラブ(2/20) ●参加人数：15人</p> <p>(3) 領域③活動・行事：工作・美術 対象：西小倉なかよし学童クラブ(2/15) ●参加人数：14人</p> <p>(4) 領域④衛生等：応急処置 アレルギー 対象：松ヶ江北校区放課後児童クラブ(2/2) ●参加人数：13人</p> |

| 事業 | 概要 |
|---------------|--|
| 4 学生ボランティア事業 | <p>インターンシップやボランティア等の課外活動の一元化を図るため、地域教育実践研究センター運営委員会の下に「地域活動推進ワーキンググループ」を新たに設置し、学生の活動履歴を把握するシート、および報告書の書式について検討した。</p> <p>本学は、学校教員や幼児教育者等を目指す学生に現場経験を積ませるため、グリーンティーチャー等として、幼稚園・保育所、小学校、特別支援学校に数多くの学生を派遣している。また、ボランティアとして、公共図書館、病院施設等にも学生を派遣している。平成28年度は以下のとおり学生を派遣した。</p> <p>(1) グリーンティーチャー 人間発達学科において取得免許種毎の学生の実践力向上を図る学生ボランティア事業について「グリーンティーチャー」と命名された。グリーンは、「緑の、未熟な、未経験の、元気のいい、若々しい、新鮮な」という意味を含んでおり、今後の学生の成長を期待したいという思いも込めている。</p> <p>①幼稚園・保育所 ●派遣学生数：本学附属幼稚園42人/さんろくこどもえん8人/本城西幼稚園7人 浅川保育園10人/栄美保育園11人/赤間保育園12人 計90人</p> <p>②小学校 ●派遣学生数：北九州市58人/中間市5人/その他10人 計73人</p> <p>③特別支援学校 ●派遣学生数：八幡西4人/八幡11人/北九州3人/小池13人/小倉南5人 計36人</p> <p>(2) その他のボランティア</p> <p>①公共図書館等 派遣先図書館(抜粋)：北九州市立八幡図書館/北九州市立若松図書館 等 ●派遣学生数：26人</p> <p>②病院施設 ●派遣学生数：産業医科大学病院2人/中間市親子広場リンク3人 北九州乳児院1人/よしだ小児科医院1人/小池学園1人 計8人</p> <p>③短大(幼稚園・保育所・施設) ●派遣学生数：本学附属幼稚園112人/鞍手ゆたかの里17人/あおばの里21人 フルーツバスケット6人/若松ひまわり学園8人 計164人</p> |
| 5 先進事例の視察 | <p>本学の地域連携事業をさらに発展させるため、他大学、企業等と情報交換等を目的に「地域活性学会」へ入会した(8/1)。</p> <p>本学会は、内閣府、地域活性化に取り組む全国の大学、自治体、企業が中心となって設立された学会である。年に1度開催される本研究大会において、本学の地域連携事業の実績を公表することを予定している。</p> |
| 6 その他の地域連携諸事業 | <p>(1) 北九州・下関まなびとびあ「低学年向けプログラムWG」への参加 産学官の多様な視点から、学生の北九州・下関の定着促進を図る施策について、具体的に検討するため、4分野のワーキンググループが設置された。本学は「低学年向けプログラムWG」に参加し、低学年の地域志向の醸成について検討を重ね、効果測定の下地を作成した。</p> <p>(2) 協同組合折尾商連との意見交換会 地元活性化、および学生の教育・人材育成に寄与するため、定期的に意見交換することの覚書を取り交わした。今年度は、2回の意見交換会を行った(7/12、2/13)。</p> <p>(3) 北九州ゆめみらいワークへの出展 北九州ゆめみらいワークは、地元の魅力を知るキャリア教育のイベントとして、北九州市主催により西日本総合展示場で開催された。本学は、「生活を科学する」をテーマに人間生活学科主催でクッキーの食べ比べやハンドメイドを出展した(8/26、8/27)。 ●派遣人数：教職員2人/学生5人 計7人</p> <p>(4) 折尾地区における連携事業 折尾地区最大のイベントである「折尾まつり」に地元活性化のため、教職員および学生が実行委員として、イベントの進行、模擬店の出店等で参加した。また、吹奏楽部の演奏、ダンスコンテスト等のステージイベントに多数の学生が参加した(6/4、6/5)。</p> |

1. 芦屋町との包括的連携事業

平成28年3月29日、実践教育の場で社会の期待に応えられる学生を育成するため、芦屋町と包括的地域連携に関する協定を締結した。芦屋町と協定を締結することで、双方の持つ資源を結集し、行政や地域が抱える課題の解決、および社会性や実践力を身に着けた学生の育成等、双方のメリットを効果的かつ最大限に活かすとともに、連携事業を推進する。

平成28年度については、さわらサミット推進プロジェクト、芦屋町課題発見プログラム、壁面構成プロジェクト、地域交流サロンにおける公開講座(硬筆教室)、の4事業を中心に取り組んだ。

(1) さわらサミット推進プロジェクト

①概要

芦屋町の特産品の一つである鯖を使った料理開発・活用を通し、芦屋町のブランド化を図るため、現在のご当地グルメの時流を取り込み、グランプリ形式のイベント「さわらサミット」が企画された(平成29年2月25日、26日開催)。

本学は芦屋町との包括的地域連携協定に基づき、イベントの企画・運営に協力した。

②実施内容

本学は、専門教員によるロゴマークの作成、学生の実行委員会参加、学術パネルの作成・展示、ステージパフォーマンスの実施、ならびに栄養学科による「さわら巻き(鯖を特製そばろにし、はし巻き風に開発)」の出店等を行った。

当日は、イベント実施による相乗効果もあったことから、約9,100人の来場があり、大盛況のうちにサミットを終えることができた。全体の提供食数は、両日合計で約7,900食、グランプリの投票総数は約4,700票となった。なお、さわら巻きの提供食数は、両日合計で751食となった。



書道パフォーマンスの実施
(書道部)



学生の実行委員会参加



さわら巻きの出店
(栄養学科)



ロゴマークの作成
題字：古木 誠彦 准教授



学術パネル[食文化・歴史]の展示
(人間生活学科)



園児とリズムダンスの実施
(子ども健康学科)



ドレスコレクションの実施
(人間生活学科)

(2) 芦屋町課題発見プログラム

①概要

人間生活学科のカリキュラムの中で、社会で必要となる力を学生に身につけさせるため、芦屋町をフィールドに課題発見プログラムを実施した。本プログラムは、アクティブラーニングを中心に構成されており、ワークショップ、特にジグソー学習法によるグループ活動等を実施した。さらに、学習成果を芦屋町に報告した。

②実施内容

| | |
|---------|-------------------------|
| 4月～5月 | グループ事前研修 |
| 6月 | 芦屋町散策と課題発見・グループディスカッション |
| 7月 | 課題解決ワークショップ・中間発表 |
| 10月～11月 | グループ活動 |
| 12月～1月 | ジグソー学習法・成果報告会 |



③成果と今後の課題

成果については、与えられた課題に関して、チームで働く力を養った結果、対人スキルや対自己スキルの向上がみられた。また、課題に関して「①資料分析」「②課題発見」「③解決策構想」「④表現(発表)」というプロセスを辿りながら課題の解決ができるようになり、併せて、知識を展開できる思考力が養われたことが、社会人基礎力を計るPROGテストから明らかとなった。一連の活動によって「人が集う町、芦屋をめざして」をテーマに、安全・美化・観光の3分野でテーマ設定をして芦屋町への提案書を作成し、報告することができた。

本研究では、学生一人ひとりの力の伸びを検証するため、評価指標を設定していた。今後の課題としては、評価の齟齬を無くすため、評価者(教員)全員が、その評価指標を共通理解する研修が必要となる。

(3) 壁面構成プロジェクト

①概要

芦屋町活性化事業の一策として、①壁面を活用したアートプロジェクトの実施、②空き家等の壁面に子どもたちがアートを描く、③海外作家(芸術家)が来日した際の制作活動を行う活動拠点を探す等、の3つの観点から、芦屋町をフィールドに合同プロジェクトを企画した。

②実施内容

平成28年8月1日、担当教員(子ども健康学科講師:富永剛)、地域教育実践研究センター所長、職員、および芦屋町の職員で芦屋町内を視察した。この視察結果を以下のとおりまとめ、平成29年度から中長期的に取り組んでいくこととした。

| アクアシアン施設考察 | |
|---|--|
| <p>水族館を作ろう! その1</p> <p>子どもたちを対象として、透明のビニールシートに海の生き物の絵を描くワークショップを行う。そこで完成した絵をアクアシアン管理棟の円形に空いた天井から吊るす。 [課題: 吊り下げ方法/作業および固定方法/夏の期間限定]</p> | |
| <p>水族館を作ろう! その2</p> <p>子どもたちを対象として、流水プールの橋の下に海の生き物の絵を描くワークショップを行う。または、学生が絵を描くことも選択肢として含む。 [課題: 夏の期間過ぎてからの制作となる。]</p> | |
| <p>水族館を作ろう! その3</p> <p>子どもたちを対象として、海の生き物の絵を描くワークショップを行う。そこで完成した絵(デザイン)を学生の手によってアクアシアン施設の中で何らかの形で展開する。 [課題: 内容が不透明/長期の展開となること予想される。]</p> <p>※上記3プランを色々組み合わせる展開していくことも考えられる。その他、お土産のパッケージのデザインに活かす等。また、プールに水がない時期にプール内にチョークで海の生き物の絵を描くイベント等。</p> | |
| 丸の内住宅および倉庫施設考察 | |
| <p>丸の内住宅は、アーティストが芦屋町に滞在し、ワークショップや展覧会を開催してもらう宿泊所として適していると思われる。また、ワークショップの内容は招待するアーティスト次第だが、展覧会場として、海岸近くの倉庫の活用も考えられる。</p> | |
| 駐輪場施設考察 | |
| <p>地域の住人と学生が協力して季節に応じた草花を育てる。また、その草花に合わせて建物にペインティングを行う。長期的な活動を目指す、その時の状況や、住人・学生のアイデアに応じて、フレキシブルに活動内容を決めていく。[課題: 水場/足場の確保]</p> | |

(4) 地域交流サロンにおける公開講座(硬筆教室)

①概要

「地域交流サロン」は、芦屋町の高齢者が身近な場所に集い、体操や趣味、食事、おしゃべり等を通じて、生きがい作りや介護予防のため運営している。そのサロンの高齢者を対象に学び直しの機会を提供するため、本学教員による公開講座(硬筆教室)を実施した。

②実施内容

| | |
|------|--|
| タイトル | 硬筆教室「えんぴつでなぞりながら読む徒然草」 |
| 担当教員 | 九州女子大学 共通教育機構 准教授 河原木有二、大迫正一 |
| 実施日時 | 平成28年12月5日(月) 10:00~12:00 |
| 実施場所 | 地域交流サロン |
| 参加者 | 高齢者12人 |
| 目的 | 日本の古典文学(今回は徒然草)をなぞりながら読むことで、単なる「文学講座」や「硬筆教室」だけでは学べない、「筆読」という新しい営みを体験してもらう。 |
| 概要 | 『えんぴつで徒然草』の筆者(書道担当)と監修者(古典文学担当)である二人が赴くことで、古典文学をえんぴつでなぞりながら読み味わい、なおかつ美しい文字の書き方を学ぶ。 |
| 準備 | ①テキスト(『えんぴつで徒然草』 ポプラ社) ②Bや2Bなど、なるべく芯の軟らかいえんぴつ |

研修の展開

| 主な研修内容 | 指導・支援上の留意点 |
|--|--|
| 『えんぴつで徒然草』の成り立ちと「筆読」ということについて (30分) | <ul style="list-style-type: none"> ・『えんぴつで徒然草』という書物の成立の背景を、二人の自己紹介を兼ねて行う。 ・なぞりながら読むという行為、すなわち「筆読」という営みについて説明する。 |
| 『徒然草』について (30分) | <ul style="list-style-type: none"> ・『徒然草』の成立、作者、内容について説明する。(専門的すぎないように) ・江戸時代に出版された『徒然草』や、作者兼好の筆跡のレプリカ等を鑑賞する時間をとる。 ・『徒然草』の「現代性」をもってまとめとする。 |
| —10分休憩— | |
| 『徒然草』をなぞりながら読む (50分) | <ul style="list-style-type: none"> ・えんぴつの持ち方について指導する。 ・序段をはじめ、有名な章段を選ぶ。 ・なぞりながら読むという行為、すなわち「筆読」という営みを実際に体験してもらう。 ・「ひと文字アドバイス」を行い、美しい文字の書き方も学ぶ。 ・本日の講座のまとめ |



参加者の声

研修の満足度：大満足82%・満足18%・普通0%・やや期待外れ0%・期待外れ0%

※コメントを一部抜粋

- ・説明が丁寧でした。時間が経つのも忘れるぐらい学ぶことができました。
- ・久しぶりに脳の体操になりました。
- ・日頃、字を書くことを考えていなかったが、今日はお話を聞いて良かったです。
- ・文字に触れる機会をいただき、うれしく思いました。次の機会を是非希望します。
- ・とにかく分かり易く、一言一言感じ入ることができました。
- ・日頃、何気なく書いている字。これからは心して書いていきたい。
- ・象形文字や字の書き順について、勉強になりました。
- ・「ひらがな」がどういった形でできたのか勉強になりました。

担当教員の感想

芦屋町にお住まいの高齢者を対象に、新しい試みとして硬筆教室を行いました。多くの方がこのような教室は初めてということで、しり込みをされる方もいらっしゃいました。そのような状況から、参加者には予定していたものから、分かり易い内容の講座を行うことにしました。

その結果、参加者の反応が思った以上で、何とか本来予定していた内容に近づけることができ、安堵しました。参加者の感想を含め、本来の任を果たせたならば幸いです。

2. 北九州商工会議所との連携事業

平成28年度の北九州商工会議所との連携事業は、昨年に引き続き「文系インターンシップ事業」を実施し、また、平成28年度から新たに「課題解決型インターンシップ事業」を実施した。これらの事業は、若者の地元定着率の向上と地域経済の発展を目指すため、北九州市と地元大学との連携による文部科学省の補助事業「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の中で実施している事業である。

(1) 文系インターンシップ事業

①概要

文系学生を対象に地元中小企業の魅力を発信するため、北九州商工会議所と北九州市が市内の大学や短期大学と連携し、地元企業における就業体験を地方創生事業として取り組んだ。

②本事業の実施内容

| 項目 | 内容 |
|---------------|--|
| 参加大学 参加学生数 | 九州女子大学:26人 九州共立大学:9人 北九州市立大学:21人 折尾愛真短期大学:9人 九州国際大学:13人 西日本工業大学:28人 西南女学院大学:26人 計132人 |
| 参加企業数 | 84社(学生を受け入れた企業数61社) |
| 実施時期 | 夏季(平成28年8月～9月) 春季(平成29年2月) |

③本学の実施内容

| 受け入れ先 | 日程 | | 日数 | | 派遣人数 | | 合計 |
|----------------|-----------|-----------|-----|-----|-----------|-----------|-----------|
| | 夏季 | 春季 | 夏季 | 春季 | 夏季 | 春季 | |
| 北九州八幡ロイヤルホテル | 8/1～8/31 | | 1ヶ月 | | 1 | | 1 |
| 社会福祉法人 年長者の里 | 8/9～8/10 | | 2日間 | | 1 | | 1 |
| (株)ルネ | 8/17～8/19 | | 3日間 | | 1 | | 1 |
| (株)ザザホラヤ | 8/17～8/19 | 2/14～2/16 | 3日間 | 3日間 | 1 | 1 | 2 |
| アイム電機工業(株) | 8/22～8/26 | | 5日間 | | 1 | | 1 |
| 計測検査(株) | 8/22～8/26 | | 5日間 | | 2 | | 2 |
| (株)サンレー | 8/24～8/25 | | 2日間 | | 1 | | 1 |
| 明治安田生命保険(相) | 8/29～9/2 | | 5日間 | | 2 | | 2 |
| (株)グローバルケア | 9/5～9/8 | | 4日間 | | 2 | | 2 |
| (株)ドーワテクノス | 9/5～9/9 | | 5日間 | | 1 | | 1 |
| (株)西日本メタル | 9/7～9/9 | | 3日間 | | 1 | | 1 |
| 福岡ひびき信用金庫 | | 2/14～2/15 | | 2日間 | | 1 | 1 |
| 小倉ターミナルビル(株) | | 2/14～2/15 | | 2日間 | | 2 | 2 |
| (株)城野自動車学校 | | 2/14～2/18 | | 5日間 | | 1 | 1 |
| (株)不動産のデパートひろた | | 2/16 | | 1日間 | | 2 | 2 |
| (株)木輪 | | 2/16～2/17 | | 2日間 | | 2 | 2 |
| 九州スズキ販売(株) | | 2/16～2/18 | | 3日間 | | 1 | 1 |
| (有)マーサ | | 2/20～2/24 | | 5日間 | | 1 | 1 |
| (株)アイ・エム・シー | | 2/23～2/25 | | 3日間 | | 1 | 1 |
| 合計 | | | | | 14 | 12 | 26 |

(2) 課題解決型インターンシップ事業

①概要

外国人の雇用に関しては、日本人にはない制度や配慮すべき事項がある。そこで、北九州商工会議所は、企業経営者に対して、外国人留学生の採用を支援するため、「外国人留学生採用ハンドブック」の作成を企画した。平成28年度の実習テーマは、そのための素案作りを市内複数大学の学生が共同で取り組むものであった。

②本事業の実施内容

| 項目 | 内容 |
|----------|---|
| 参加大学/学生数 | 九州女子大学:2人 北九州市立大学:2人 九州国際大学:1人 西南女学院大学:2人 計7人 |
| 場 所 | まなびとJOBステーション(アミュプラザ小倉8F) |
| 実施時期 | 平成28年9月2日～9月15日(10日間) |

【学生および企業のコメント】

北九州八幡ロイヤルホテル



【学生のコメント】

多くの方とお話しをして、一人ひとりに対してのサービスの徹底が大切だと感じました。また、海外の方に対して、日本語以外話すことができず、戸惑うことが多々ありました。

【企業のコメント】

女性らしい細やかな気配りができ、お客様の気持ちを察することのできるホテリエであると思います。

㈱西日本メタル



【学生のコメント】

ワーク活動をする上で、協力することの大切さを知ることができ、仕事の仕組みや職種に触れることで考え方が広がったように感じました。そして、自分が社会人としての基礎力がまだまだ身につけていないことが分かりました。

【企業のコメント】

穏やかな気持ちを持ち、周囲の人と協力して物事を進めることができていました。パワーポイント作成の課題では、自分の納得がいくまで課題に取り組む姿勢が印象的でした。

(有)マーサ



【学生のコメント】

実際に業務を体験してみると様々なギャップがあり、できそうにないと思っていたことがやってみると楽しく、新たな自分を発見することができました。そして「周りをよく見て気を配る」ということがあらゆる場面において大切であることを学びました。また、実際に社会人として活躍されている方の話を聞くことで、“働く”というイメージを持って、視野を広げることができました。

【企業のコメント】

積極的に質問をし、真剣に業務に取り組む姿がとても印象的でした。

㈱ザザホラヤ



【学生のコメント】

接客はもちろん、商品の配置においてもお客様を気遣っており、また、社員の方が電話で店舗の売り上げや、どういった商品を置いてみたいかの戦略を含め自分の意見を伝えている姿を見て、現場の声が届けられる職場だと感じました。

【企業のコメント】

とても素直で、着実に能力を伸ばすタイプだと感じました。当社を就職先に考えられるようでしたら当社も受け入れ可能な人材ですが、そうでなくても伸びていく方だと思います。

小倉ターミナルビル㈱



【学生のコメント】

社会人になるということを身をもって知ることができました。業務の模擬体験を通じて、人と話し合うことの重要性や、強調性、自分の意見を伝える力を養うことができたと感じています。

【企業のコメント】

初めてのインターンシップ体験だったようで、緊張されているようでしたが、ご自身の中でこの体験を通して学びたいこと、また新たな発見を得る等、しっかりとした目的を持って参加されていたことは大変良かったと思います。

3. 北九州市との連携事業

平成25年9月1日に北九州市と本学で「北九州市放課後児童クラブの振興に関する連携」について協定を締結した。平成27年度連携事業開始にあたっては、放課後児童クラブの要望を把握し、児童クラブの指導員を対象にアンケート調査を行った。このアンケート調査の結果から、4領域(①生活、②遊び、③活動・行事、④衛生等)において、要望のあった4つの内容の公開講座を実施した。平成28年度については、①生活「発達障害」、③活動・行事「ダンス・手遊び」「工作・美術」、④衛生等「応急処置」「アレルギー」の公開講座を実施した。

(1) 放課後児童クラブからの要望事項

【領域①：生活】

| 内容 | 放課後児童クラブからの要望 | 実施年度・担当教員 |
|-----------|--|------------------------------|
| 生活指導 | <ul style="list-style-type: none"> 今まで高学年については、低学年の延長としての認識や低学年の面倒をみてくれる存在にしていた部分が多いため、高学年の発達に応じた独自の生活指導の研修があれば良い。 けんかの際に相手方に言い分がある場合の対応の仕方 親子のコミュニケーションがうまくいっていない子どもの問題行動への対応 児童と指導員との対応の仕方。例えば、問題児とのかかわり方等、具体策について勉強してみたいと思う。 発達段階とはいえ個人差も大きいので、どこに合わせていくのが良いか。 | 平成27年度 人間発達学科：神代明 藤川一俊 |
| 発達障害 | <ul style="list-style-type: none"> 障がい児と健常児の間(ボーダー)のような子どもの生活指導に不安があるため、そのような子どもへの対処の仕方の研修があれば良いと思う。 発達障害やボーダーラインの子どもたちに関する研修があれば参加したい。 発達障害を持った児童に対する指導方法等の研修 落ちつきのない児童(グレーゾーン)の対応、声かけ等 | 平成28年度 人間発達学科：石黒栄亀 |
| 保護者クレーム対応 | <ul style="list-style-type: none"> 児童同士のトラブルにおける保護者からのクレーム対応 | |

【領域②：遊び】

| 内容 | 放課後児童クラブからの要望 | 実施年度・担当教員 |
|--------|--|-----------------------|
| 遊び(レク) | <ul style="list-style-type: none"> 現在もレクリエーションの研修が年に1度あっているが、もう少し増やして欲しい。 高学年の遊びについても子どもにまかせていたので、どのように導けば良いのか教えて欲しい。 集団あそび(高学年) 子どもの興味をひく遊びや低学年用、高学年用等、年齢に合った遊び 遊びのスペースが狭いため、限られた環境に適した遊びの指導、小学校高学年児童向けのもの | 平成27年度 人間発達学科：藤川一俊 |

【領域③：活動・行事】

| 内容 | 放課後児童クラブからの要望 | 実施年度・担当教員 |
|---------|---|--|
| ダンス・手遊び | <ul style="list-style-type: none"> ダンスや演奏活動は素人ではできないため、3ヶ月に1回講師を呼んで行っているが、指導員でもできるものがあれば教えて欲しい。 以前、保育所に勤めていた際は子どものアニメソング等に合わせてダンスの講習会等があったが、学童でもそういうものがあれば良いと思う。またそれに合わせてCDの販売等もあれば好ましい。 浅川児童館の放課後児童クラブは200名を超えている。夏休み等にいくつかのクラスに分けて、ダンス、製作、その他希望する活動が一斉にできればとてもありがたい。 ダンス、演奏等の活動はできていないと感じているため、楽しんで体を動かす活動を教えてあげて欲しい。 | <p>平成27年度 人間発達学科：青山優子</p> <p>平成28年度 子ども健康学科：津山美紀</p> |
| 工作・美術 | <ul style="list-style-type: none"> 全学年が満足する夏休みの工作で毎年悩んでいるため、そういう研修をして欲しい。 夏休みの自由研究に提出できる様な(アイデア貯金箱等)実用的なもの、作ったものを後に使うことができるクラフト等の製作の研修があれば参加したい。 科学的な実験や、動くおもちゃの製作等、子どもの興味、好奇心をそそるような体験行事があると良い。 | <p>平成28年度 子ども健康学科：富永剛</p> |
| 活動 | <ul style="list-style-type: none"> 職員の啓もう もっと1～6年生が気軽にできたり、夏に取り組める例を知りたい。多人数(50人以上)でも得意なボランティアや講師がいたら取り入れてみたい。 | <p>遊び(レク)と合わせて 平成29年度～</p> |

【領域④：衛生等】

| 内容 | 放課後児童クラブからの要望 | 実施年度・担当教員 |
|-------|--|---|
| 応急処置 | <ul style="list-style-type: none"> 応急処置の仕方。ハチにさされた、大量の鼻血、けいれん等 インフルエンザ等で学校から子どもたちが早帰りした場合、受け入れなければならない現状があるが、隔離が困難である。このようなケースの対応について。 | <p>平成27年度 人間発達学科：春高裕美</p> <p>平成28年度 人間発達学科：春高裕美</p> |
| おやつ | <ul style="list-style-type: none"> 児童に多い疾病、食物アレルギーに関する対処方法等の研修 簡単に時間と手間をかけずにできる手作りおやつ作りのレシピを紹介して欲しい。 | <p>平成29年度～</p> |
| アレルギー | <ul style="list-style-type: none"> アナフィラキシーショックの対応(エピペン使用)の研修 アレルギーの「完全除去」「製造ラインから除く」等、基礎的な知識とおやつ工夫を知りたい。 | <p>平成28年度 人間発達学科：春高裕美</p> |
| 不審者対応 | <ul style="list-style-type: none"> 不審者が侵入した際の対応の仕方。子どもの誘導、カラーボールを準備して投げる等 女性でも子どもたちを守る護身術等。他に救急対応、不審者対応等 | <p>遊び(レク)と合わせて 平成29年度～</p> |

(2) 公開講座の実施内容

【領域 ①：生活】 発達障害

| | | | |
|--|---|--|------|
| タイトル | 発達障害の子どもの特性と基本的理解 | | |
| 領域 | 生活 | 内容 | 発達障害 |
| 担当教員 | 九州女子大学 人間科学部 人間発達学科(人間発達学専攻) 准教授 石黒栄亀 | | |
| 実施日時 | 平成29年2月21日(火) 10:30 ~ 12:00 | | |
| 実施場所 | けやき児童クラブ | | |
| 参加者 | 指導員13人 | | |
| 目的 | 近年、教育の現場では様々な発達に課題を抱える子どもたちの対応が問題となっており、その正しい理解と支援へのニーズが高まっている。今回、模擬体験等を通して発達に課題を抱える子どもたちの支援に必要な基本的理解を行う。 | | |
| 概要 | 発達に様々な課題を抱える子どもたちの特性を理解するため、基本的な知識をつける。また、発達障害の模擬体験を通して、発達に困難を抱える子どもたちの認知特性を理解し、関わりかたの工夫に活かす。 | | |
| 準備 | ①体験用の手袋、②教材・教具 | | |
| 研修の展開 | | | |
| 主な研修内容 | | 指導・支援上の留意点 | |
| <p>1. 発達に課題を抱える子どもの基本的理解</p> <p>発達に課題を抱える「気になる子ども」ってどのような子どもたちだろう？なぜ子どもたちがそのような行動をしてしまうのか、子どもたちの抱える困難さの数々を理解しよう。</p> <p style="text-align: right;">(30分)</p> | | <p>子どもたちの支援現場では、現在様々な困難を抱える子どもたちの理解をどのようにすべきなのか、という問題に直面している。そこで、例えば我慢ができない子どもや、癇癪を起こす子ども、不器用な子ども等、発達に何らかの課題を抱える子どもが、なぜそのように行動してしまうのかを理解する。</p> | |
| <p>2. 発達に課題を抱える子どもを理解するための模擬体験</p> <p>①視覚認知体験～ヒトは世界をどのように見て、どのようにとらえているのか。もしそこに困難があったら？</p> <p>②触覚認知体験～どこか不器用な子どもたちがなぜ不器用なままなのか、うまくものを扱えない体験をしてみよう。</p> <p style="text-align: right;">(30分)</p> | | <p>発達に何らかの困難や課題を抱える子どもたちには、周囲の環境から得た感覚情報を適切に処理をして対応する力が十分ではない。すなわち、「認知」と「適応」に課題を抱える子どもたちが存在する。そこで、ここではヒトの認知特性を理解して「認知」や「適応」に課題を抱える子どもたちを理解するため、模擬体験を行い、イメージする。</p> | |
| <p>3. 発達に課題を抱える子どもの基本的対応</p> <p>子どもたちの困難さを具体的に理解した上で、課題を抱える子どもたちに必要な「合理的な配慮」と「特別な支援」について考えてみよう。</p> <p style="text-align: right;">(30分)</p> | | <p>子どもの発達課題に関する基本的な理解と、「認知」と「適応」の模擬体験を通して、子どもの困難さに対する具体的な「気づき」から、それぞれが抱える「困難さ」に応じた対応について、話し合い等を通じて考えてみる。</p> | |

【領域 ③：活動・行事】 ダンス・手遊び

| | | | |
|---|--|--|---------|
| タイトル | リズム表現を通した子どもの心と体への働きかけ | | |
| 領域 | 活動・行事 | 内容 | ダンス・手遊び |
| 担当教員 | 九州女子短期大学 子ども健康学科 教授 津山美紀 | | |
| 実施日時 | 平成29年2月20日(月) 10:30 ~ 12:00 | | |
| 実施場所 | 曽根東校区放課後児童クラブ | | |
| 参加者 | 指導員15人 | | |
| 目的 | 子どもたちが持っている音楽的感性を、体全体を使ってリズムを表現することで、その感性を伸ばす。リズム運動を通して連帯意識やコミュニケーション力を養う。 | | |
| 概要 | 子どもが楽しみながら音楽に合わせて体を動かすことにより、子どもの感性や成長により働きかけができると言われている。特に、リズム表現を日頃の活動に取り入れることにより、集中力やリズムをイメージする想像力、リズムを体で表す反応力や表現力が身につくと考える。また、心のイメージを体で表現することにより、子どもたちの心身の調和とバランスを育てていくことを目標に様々な表現活動を行う。 | | |
| 準備 | ①ブルーシート、②テープ、③シンセサイザー 等 | | |
| 研修の展開 | | | |
| 主な研修内容 | | 指導・支援上の留意点 | |
| 1. 体を使ったリズム表現 ①手遊び・歌遊び ②まねっこリズム ③みなさんリズム ④ボディパーカッション (30分) | | 音楽の要素のひとつであるリズムを通して、体を使って表現することの楽しさを伝える。 特定の子どもだけが中心にならないように、内気な子どもにも配慮できるようにする。 | |
| 2. 道具を使ったリズム表現 ①ブルーシートで音遊び「うみ」 ②春の風テープで歌遊び「春がきた」 ③テニスボールでリズム遊び「春の小川」 (30分) | | 曲の歌詞やメロディから情景をイメージし、曲想にふさわしい美しい声で歌う発声方法を学ぶ。 身の回りにある音の楽しさに気付くことで、心の耳を開き育てていくことを学ぶ。 | |
| 3. 声を使ったリズム表現 ①ボイスリズム 身近で使っている言葉からリズムを付ける。 ②ボイスアンサンブル 手拍子を入れて、アンサンブルを行う。 野菜や果物等の名前を組み合わせた作品を演奏する。 | | 普段使っている言葉からも工夫次第で色々な音楽をつくることを学ぶ。 言葉にリズムを付け、音楽の素材になる方法を学ぶ。 音楽を通して子どもの心をつかむ秘訣を考える。 | |
| 4. 遊び歌で踊る ①ふりかけパラパラ (30分) | | | |



参加者の声

研修の満足度：大満足6%・満足67%・普通27%・やや期待外れ0%・期待外れ0%

※コメントを一部抜粋

- ・音楽＝歌ということではなく、音楽＝動き、表現、コミュニケーションと普段のクラブ内の活動として、子どもたちと楽しめると思った。
- ・みんなで力を合わせて行う遊びが多く“協力”を学べると感じたことが印象的だった。
- ・耳をすませる行動等で“集中力”を使うことが良かった。
- ・できなくても落ち込まない雰囲気になる進め方が良かった。
- ・レクリエーション的な感じで楽しかったが、これらが“心と体”へどう働きかけるのか、もう少し深く学べると良かった。

担当教員の感想

指導員の方々は、和気あいあいと明るく、とても熱心に参加されていました。研修内容が盛沢山でしたので、時間内に納めることができるかどうか不安でしたが、指導員の方々のチームワークの良さや参加意欲の高さに助けられ、思っていた以上にスムーズに運びました。

特に声を使ったリズム表現では、チームで一生懸命練習して一つの作品を作り上げることができ、大変感動しました。今後、各放課後児童クラブでの活動において、音楽が苦手な子どもたちでも身近にあるものや体を利用してコミュニケーション力や表現力を身につけ、楽しく表現活動ができることを期待しております。

【領域③：活動・行事】 工作・美術

| | | | |
|---|---|--|-------|
| タイトル | 制作体験(工作・美術)～実用的なものから遊べる制作物まで～ | | |
| 領域 | 活動・行事 | 内容 | 工作・美術 |
| 担当教員 | 九州女子短期大学 子ども健康学科 講師 富永剛 | | |
| 実施日時 | 平成29年2月15日(水) 13:00～14:30 | | |
| 実施場所 | 西小倉なかよし学童クラブ | | |
| 参加者 | 指導員14人 | | |
| 目的 | 子どもに対する制作指導方法のポイントを制作事例から学ぶ。実用的なものから遊べる制作物まで幅広く体験する。 | | |
| 概要 | <p>1. 実用的な制作物／著作 生活の中で使える実用的なものを制作する。制作方法、道具の使い方を実際に体験しながら学ぶ。</p> <p>2. 科学的原理を用いた制作物／空気砲 子どもの興味、好奇心をそそるような内容について体験する。</p> | | |
| 準備 | ①竹、②小刀、③サンドペーパー、④ニス 等 | | |
| 研修の展開 | | | |
| 主な研修内容 | | 指導・支援上の留意点 | |
| <p>1. 夏休みの自由研究等の子どもの制作に対する指導方法のポイントについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ設定、材料の特質について ・子どもの自主性を尊重する ・体験から学ぶことの大事さ <p style="text-align: right;">(15分)</p> | | <p>指導員として子どもの制作を指導する際に、困っていること、疑問等をお互い発表し、その解決方法について話し合う。</p> | |
| <p>2. 実用的な制作物／著作 生活の中で使える実用的なものを制作する。制作方法、道具の使い方を実際に体験しながら学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料となる竹について ・使用する道具について ・加工方法について ・制作体験 <p style="text-align: right;">(50分)</p> | | <p>日本の伝統的素材・技術をあらためて見直し、身近にあるものについて考え、触れることの重要性を感じる。危険な道具を使用する際の注意事項の確認。</p> | |
| <p>3. 科学的原理を用いた制作物／空気砲 子どもの興味、好奇心をそそるような内容について体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空気砲の原理について ・制作方法について ・空気砲で遊ぼう！ <p style="text-align: right;">(25分)</p> | | <p>遊びの中から、新しいことを発見し、別の活動へと展開していくことができることを学ぶ。</p> | |



参加者の声

研修の満足度：大満足69%・満足31%・普通0%・やや期待外れ0%・期待外れ0%

※コメントを一部抜粋

- ・子どもたちにもゲームばかりではなく、おもちゃがなくても身近にあるもので工夫して遊べるようになって欲しいと思った。
- ・先生がお話していた「実物を使って苦労して作ることを伝える」ということが今の子どもたちに大切だと感じた。
- ・なかなか扱うことのない道具(なた、小刀)に触れることができ、自分の知識として今後の保育で生かすことができると思った。
- ・子どもたちと一緒に作業することにより、共通の話題、完成の喜びを得ることで、一体感を覚え、より親しい感情を得ることができた。

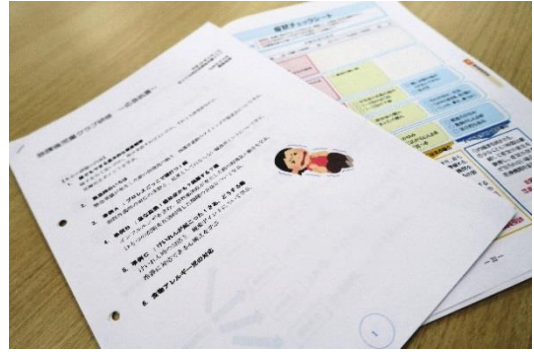
担当教員の感想

研修を行う前は、制作を中心とした研修であったため、参加者によっては得意・不得意があるだろうと思っていました。しかし、全員がとても興味を持ち、熱心に取り組まれている様子を見て、指導員の方々の姿勢に私自身が学ぶことが多かったです。

今回の内容としては、日本の伝統的素材である竹を用いた箸作りと空気砲の制作体験を行い、身近なものに対して関心・興味を持つことの重要性について考えていただきました。研修で感じていただいたことや学んだ技術が、今後、子どもたちへの活動の一助となれば幸いです。

【領域④：衛生等】 応急処置 アレルギー

| タイトル | 応急処置 ～実際にやってみよう、緊急対応と応急処置～ | | |
|---|--|---|------------|
| 領域 | 衛生等 | 内容 | 応急処置 アレルギー |
| 担当教員 | 九州女子大学 人間科学部 人間発達学科(人間発達学専攻) 講師 春高裕美 | | |
| 実施日時 | 平成29年2月2日(木) 10:30～12:00 | | |
| 実施場所 | 松ヶ江北校区放課後児童クラブ | | |
| 参加者 | 指導員等13人 | | |
| 目的 | 基本的な健康観察の方法や、緊急時対応について学ぶ。 | | |
| 概要 | 放課後児童クラブの指導員に求められる緊急時の役割と対処方法をわかりやすく講義する。加えて、日常的に起こるケガや病気の応急処置について、事例を通して演習する。近年の課題である、食物アレルギー対応について学び、エピペントレーナーを用いた実技演習を実施する。 | | |
| 準備 | ①配布資料、②動きやすい服装で参加(スカート不可)、③エピペントレーナー | | |
| 研修の展開 | | | |
| 主な研修内容 | | 指導・支援上の留意点 | |
| 1. 誰でもできる基本的な健康観察 | | 1. 誰でもできる基本的な健康観察 様子をみて良いのか、明日受診なのか、それとも即受診なのか、見極めるポイントを学ぶ。 | |
| 2. 緊急時のいろは (15分) | | 2. 緊急時のいろは 緊急事態が発生した際の指導員の動き、保護者連絡のタイミングや留意点について学ぶ。 | |
| 3. 日常保育で起こりやすい事例検討 ①事例A：プロレスごっこで頭部を打つ ②事例B：急な高熱。隔離する？ ③事例C：けいれん発生。どう動く？ (30分) | | 3. 事例検討 ① 頭部外傷の対応の実際と、見落としとしてはならない観察ポイントを学ぶ。 ② インフルエンザを含む、急性感染症が発生した際の指導員の動きや、ひとつの空間を有効利用した隔離方法について学ぶ。 ③ けいれん等の緊急対応について、観察ポイントと冷静に対応する心構えを学ぶ。 | |
| 4. 食物アレルギーの対応 ①エピペンの必要な子どもが入所したら ②重症度判定と注射タイミング ③エピペントレーナーを用いた実技演習 (45分) | | 4. 食物アレルギーの対応 はじめに、東京での死亡事例、福岡での緊急事例を紹介し、なぜ事故が起こったのかを振り返る。 ① 入所時の取り決め、エピペンの保管について、正しい知識を身につける。 ② 注射タイミングについて、各種ガイドラインに沿って学ぶ。 ③ エピペントレーナーを用いて実技訓練を行う。併せて、周辺の動きをシミュレーションする。 | |



参加者の声

研修の満足度：大満足80%・満足20%・普通0%・やや期待外れ0%・期待外れ0%

※コメントを一部抜粋

- ・エピペンの使用方法、どのような時に使用すれば良いか等を学べて安心した。
- ・“判断する”ということが一番難しいと感じた。
- ・保護者と密に連絡を取り合い、緊急時対応マニュアルを作り、指導員間で何でも話せるように心がけようと感じた。
- ・もしもの時に活かせる様に、訓練プログラム作成と実践の必要性を痛感した。
- ・基本的な観察とアレルギー症状が細かく表示されていて、判断(アナフィラキシー)が理解できた。

担当教員の感想

当日は指導員の皆さん、松ヶ江北校区の地域の方々、また小学校からもお集まりいただき大変熱心に学習されておられました。近々の差し迫った課題に対し、地域全体で取り組む姿勢がうかがわれました。

今回は一般応急処置に加えてアナフィラキシーショックに備えたエピペン対応の研修を実施しました。エピペントレーナーによる実技訓練は指導員の方々の不安解消に少しでもお役に立てたのではないかと思います。

次回は、事前に事例を頂ければ、事例に合わせた現場実地シミュレーション等も取り入れていこうと思います。私自身も大変勉強になりました。

4. 学生ボランティア事業

本学は、幼児教育者や学校教員等を目指す学生に現場経験を積ませるため、グリーンティーチャー※等として、幼稚園・保育所、小学校、特別支援学校に数多くの学生を派遣している。また、ボランティアとして、公共図書館、病院施設等にも学生を派遣している。平成28年度は以下のとおり学生を派遣した。※グリーンティーチャー/人間発達学科において取得免許種毎の学生の実践力向上を図る学生ボランティア事業について「グリーンティーチャー」と命名された。グリーンは、「緑の、未熟な、未経験の、元気のいい、若々しい、新鮮な」という意味を含んでおり、今後の学生の成長を期待したいという思いも込めている。

(1) グリーンティーチャー

幼稚園・保育所

| 派遣先 | 人数 |
|-----------------|-----------|
| 九州女子大学附属自由ヶ丘幼稚園 | 32 |
| 九州女子大学附属折尾幼稚園 | 10 |
| さんろくこどもえん | 8 |
| 本城西幼稚園 | 7 |
| 浅川保育園 | 10 |
| 栄美保育園 | 11 |
| 赤間保育園 | 12 |
| 合計 | 90 |

特別支援学校

| 派遣先 | 人数 |
|----------------|-----------|
| 北九州市立八幡西特別支援学校 | 4 |
| 北九州市立八幡特別支援学校 | 11 |
| 北九州市立北九州特別支援学校 | 3 |
| 北九州市立小池特別支援学校 | 13 |
| 北九州市立小倉南特別支援学校 | 5 |
| 合計 | 36 |

小学校

| 派遣先 | | 人数 |
|-----------|---|----------|
| 北九州市 | 門司区 小森江西小学校:1人 松ヶ江南小学校:1人 | 2 |
| | 小倉北区 井堀小学校:1人 | 1 |
| | 小倉南区 守恒小学校:1人 徳力小学校:1人 貫小学校:2人 企球丘小学校:1人 | 5 |
| | 若松区 二島小学校:2人 青葉小学校:1人 深町小学校:1人 花房小学校:1人 | 5 |
| | 戸畑区 あやめが丘小学校:3人 | 3 |
| | 八幡西区 穴生小学校:1人 青山小学校:1人 赤坂小学校:3人 浅川小学校:7人 折尾西小学校:5人 折尾東小学校:11人 黒崎中央小学校:1人 医生丘小学校:3人 上津役小学校:2人 塔野小学校:1人 則松小学校:3人 星ヶ丘小学校:1人 本城小学校:3人 | 42 |
| 計 | 58 | |
| 中間市 | 中間小学校:1人 中間北小学校:3人 中間西小学校:1人 | 5 |
| | 計 | 5 |
| その他 | 水巻町立頃末小学校:2人 遠賀町立島門小学校:1人 遠賀町立海老津小学校:1人 | 10 |
| | 飯塚市立上穂波小学校:1人 香春町立香春小学校:1人 宗像市立河東西小学校:1人 | |
| | 宗像市立日の里西小学校:1人 宗像市立南郷小学校:1人 福岡市立三苫小学校:1人 | |
| 計 | 10 | |
| 合計 | 73 | |

(2) その他のボランティア

公共図書館等

| 派遣先 | 人数 |
|-----------------------------------|-----------|
| 北九州市立勝山こどもと母のとしょかん | 1 |
| 北九州市立八幡図書館 | 4 |
| 北九州市立八幡西図書館 | 7 |
| 北九州市立若松図書館 | 1 |
| 北九州市立若松図書館島郷こどもと母のとしょかん | 2 |
| 宮若市立図書館 | 2 |
| 嘉麻市立山田図書館 | 1 |
| 飯塚市立図書館 | 1 |
| 飯塚市立庄内図書館 | 1 |
| 宇部市立図書館(山口) | 1 |
| 小郡市立図書館(山口) | 1 |
| 伊万里市立図書館(佐賀) | 1 |
| 北九州学術研究都市学術情報センター ひびきのキャンパス図書館 | 2 |
| そねっと(北九州市小倉南区) | 1 |
| 合計 | 26 |

病院施設

| 派遣先 | 人数 |
|-------------------|----------|
| 産業医科大学病院(小児病棟) | 2 |
| 中間市 親子広場リンク | 3 |
| 北九州乳児院 | 1 |
| よしだ小児科医院 | 1 |
| 障害児入所施設 北九州市立小池学園 | 1 |
| 合計 | 8 |

短大(幼稚園・保育所・施設)

| 派遣先 | 人数 |
|---------------------|------------|
| 鞍手ゆたかの里 | 17 |
| 障害児支援施設 あおばの里 | 21 |
| 北九州市立若松ひまわり学園 | 8 |
| 九州女子大学附属自由ヶ丘幼稚園 | 37 |
| 九州女子大学附属折尾幼稚園 | 44 |
| 九州女子大学附属鞍手幼稚園 | 31 |
| フルーツバスケット(障がい児余暇活動) | 6 |
| 合計 | 164 |

5. 先進事例の視察

他大学や企業等の地域連携事業や研究活動の情報等を得るため、「地域活性学会」へ平成28年8月1日付で入会した。当該学会は、内閣府、地域活性化に取り組む全国の大学、自治体、企業が中心となって設立された学会である。年に1度開催される本研究大会において、本学の地域連携事業の実績を公表することを予定している。

6. その他の地域連携諸事業

(1) 北九州・下関まなびとぴあ「低学年向けプログラムWG」への参加

本件は、「北九州・下関まなびとぴあ」を中心に地方創生モデルを構築することを目的とした文部科学省の補助事業(COC+)の取り組みの一つである。産学官の多様な視点から、学生の北九州・下関の定着促進を図る施策について、より具体的に検討することを目的に4分野のワーキンググループ(調査研究WG、教育プログラムWG、低学年向けプログラムWG、就活生向けプログラムWG)が設置された。

本学は、「低学年向けプログラムWG」に参加し、地域人材力の養成のため、学生が地域への興味や関心を持てる低学年向けプログラムの開発について意見交換を重ねた。

この結果、平成28年度は、低学年の地域志向の醸成について検討し、効果測定の下地を作成した。平成29年度から本格的にプログラム開発に着手する。



(2) 折尾商連との意見交換会

地域住民に本学に対する意見等を定期的に徴し、折尾地区の活性化に寄与するため、協同組合折尾商連(加盟店舗110店舗)と意見交換をする覚書を取り交わした。

平成28年度は、2回(平成28年7月12日、平成29年2月13日)の意見交換会を行い、本学の学生に関すること、および学園大通りの活性化に関すること等について協議した。



(3) 北九州ゆめみらいワークへの出展

8月26日、27日の2日間、西日本総合展示場(小倉北区)において、北九州市の主催による「北九州ゆめみらいワーク」が開催された。本学からは、人間生活学科の学生が出展した。今年で2回目の開催を迎えた「北九州ゆめみらいワーク」。このイベントは、主に北九州地域の高校生や大学生を対象に、地元企業の仕事や大学・短期大学・専門学校等の学びについて伝え、自分の将来や社会との関わり方について考える機会を提供している。2日間で企業・団体は約80社、大学・短期大学・専門学校等は約40校が参加し、それぞれが趣向を凝らした魅力をアピールした。

九州女子大学のブースでは、人間生活学科の紹介パネルを展示し、本学科における学び、地域連携活動の取り組み、卒業後の進路等を伝えた。また、体験コーナーとして、革ひもプレスレット・くるみボタン作り、3種の砂糖を使用したクッキーの官能検査を実施し、主に女子高校生を中心に呼び込んだ。



1. 平成28年度 学外実習・介護等体験の実績

【九州女子大学】

(人数)

| 実習名 | 学科・専攻名 | 学校種別等 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 |
|-------|----------------|------------------|----|----|----|----|
| 教育実習 | 人間生活学科 | 中学校 高等学校 | / | | | 25 |
| | 栄養学科 | 小学校 | | | | 8 |
| | 人間発達学科 人間発達学専攻 | 幼稚園 | / | | 53 | 84 |
| | | 小学校 | | | 58 | 56 |
| | | 特別支援学校 | / | | | 40 |
| | 人間発達学科 人間基礎学専攻 | 中学校 高等学校 | | | | 32 |
| 保育実習 | 人間発達学科 人間発達学専攻 | 保育所 | / | 77 | 55 | 2 |
| | | 児童養護施設等 | / | | | 80 |
| 臨地実習 | 栄養学科 | 福祉施設・保健所 | / | | 78 | / |
| | | 小学校 | | | 78 | |
| | | 病院 | | | 76 | |
| 介護等体験 | 人間生活学科 | 特別支援学校 社会福祉施設 | / | | 19 | 1 |
| | 人間発達学科 人間発達学専攻 | | | | 55 | 4 |
| | 人間発達学科 人間基礎学専攻 | | | | 25 | 1 |

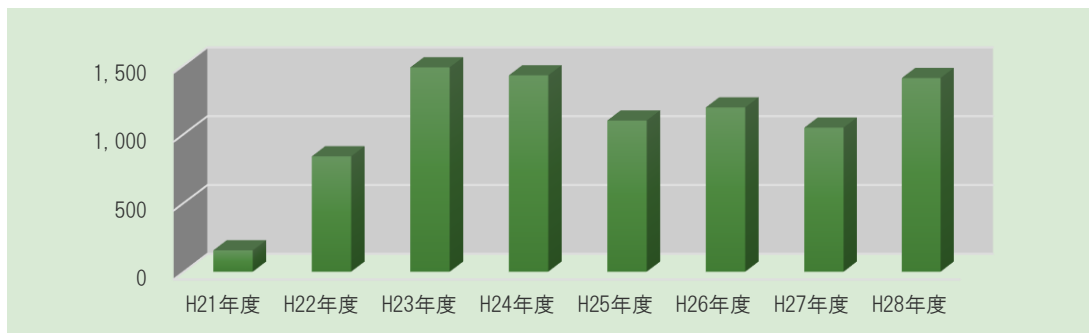
【九州女子短期大学】

(人数)

| 実習名 | 学科・課程名 | 学校種別等 | 1年 | 2年 | |
|------|-------------------|-----------------|----|----|----|
| 教育実習 | 子ども健康学科 幼稚園教諭養成課程 | 幼稚園 | / | | |
| | 子ども健康学科 養護教諭養成課程 | 小学校・中学校 高等学校 | | | 73 |
| | 専攻科 子ども健康学専攻 | 小学校・中学校 高等学校 | | | 62 |
| 保育実習 | 子ども健康学科 幼稚園教諭養成課程 | 保育所 | 72 | 24 | |
| | | 児童養護施設等 | 76 | 58 | |
| | 子ども健康学科 養護教諭養成課程 | 保育所 | 51 | 16 | |
| | | 児童養護施設等 | 53 | 22 | |
| 臨床実習 | 子ども健康学科 養護教諭養成課程 | 病院・福祉施設 | / | 62 | |

2. 教員免許状更新講習の受講者推移(平成21年度～平成28年度)

| | H21年度 | H22年度 | H23年度 | H24年度 | H25年度 | H26年度 | H27年度 | H28年度 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 講座数 | 15 | 16 | 20 | 20 | 17 | 17 | 19 | 21 |
| 受講者数 | 155 | 838 | 1,484 | 1,426 | 1,098 | 1,193 | 1,046 | 1,406 |



3. 平成29年度 教員免許状更新講習の開設予定講座(8/5～8/10)

| 日程 | 領域 | 講座名 | 講師名 | 定員数 | 講座名 | 講師名 | 定員数 |
|-------------|----------|-------------------------------|-------------|-----|----------------------------------|-------------------|-----|
| 8/5 (土) | 必修 | ①教育の最新事情 幼・小 | 大迫(秀) 鎌田 | 140 | ②教育の最新事情 中・高・養 | 大迫(秀) 鎌田 | 90 |
| | | | 大島 日高[非] | | | 大島 日高[非] | |
| 8/6 (日) | 選択 必修 | ③学校を巡る近年状況変化、 危機管理上の課題 幼・小 | 大江 宮本 | 140 | ④学校を巡る近年状況変化、 危機管理上の課題 中・高・特支 | 神代 宮本 | 90 |
| 8/7 (月) | 選択 | ⑤「生きる力」を育む表現・造形 遊び | 谷口 | 50 | ⑥児童・生徒の健康と食生活 | 巴 濱 嶺 山本 | 60 |
| | | ⑦英語コミュニケーションの 基礎 | ダートル | 50 | ⑧色弱者擬似体験から学ぶ | 森永 | 15 |
| 8/8 (火) | 選択 | ⑨教室の中の宮沢賢治 | 荻原 | 50 | ⑩文系でまなぶICT (情報通信技術)活用 | 宮本 | 55 |
| | | ⑪染色と包む ～布の機能性を改めて学ぶ～ | 上原 | 16 | ⑫表現講座 | 青山[非] 中村 | 60 |
| 8/9 (水) | 選択 | ⑬フリーソフトウェアを使って マルチメディア入門 | 宮本 | 55 | ⑭体験的な学習を導入した食育 について | 糖須海 | 30 |
| | | ⑮「筆えんぴつ」による 手書き文字教育の試み | 大迫(正) | 140 | ⑯児童・生徒のこころのありか たと教育相談による支援 | 友納 | 55 |
| 8/10 (木) | 選択 | ⑰「筆えんぴつ」による手書き 文字教育の試み | 大迫(正) | 140 | ⑱発達障害児の理解と支援 | 堀江 石黒 阪木[非] | 72 |
| | | ⑲社会保険を主題材にしたALに よる教材作成 | 田中(由) | 40 | | | |

参考資料

1. 地域教育実践研究センターの委員会等年間実績

| 日程 | | 学内委員会等 | | 外部との会議等 | |
|-----|----|--------|------------------------|---------|--|
| 4月 | 上旬 | | | | |
| | 中旬 | | | 13日 | 第1回芦屋町との連携会議 |
| | 下旬 | | | | |
| 5月 | 上旬 | | | | |
| | 中旬 | | | 18日 | 第2回芦屋町との連携会議 |
| | 下旬 | 26日 | 第1回地域教育実践研究センター運営委員会 | | |
| 6月 | 上旬 | | | 10日 | 第3回芦屋町との連携会議 |
| | 中旬 | | | | |
| | 下旬 | | | | |
| 7月 | 上旬 | | | 6日 | 第4回芦屋町との連携会議 |
| | 中旬 | | | 7日 | 第1回北九州・下関まなびとびあWG(COC+) |
| | 下旬 | | | 12日 | 第1回折尾商連との意見交換会 |
| 8月 | 上旬 | | | 9日 | 第5回芦屋町との連携会議 |
| | 中旬 | | | | |
| | 下旬 | | | | |
| 9月 | 上旬 | | | 7日 | 第6回芦屋町との連携会議 |
| | 中旬 | | | 15日 | 平成28年度課題解決型インターンシップ報告会 <small>(北九州商工会議所)</small> |
| | 下旬 | 29日 | 第2回地域教育実践研究センター運営委員会 | 21日 | 第2回北九州・下関まなびとびあWG(COC+) |
| 10月 | 上旬 | | | | |
| | 中旬 | | | | |
| | 下旬 | | | | |
| 11月 | 上旬 | | | | |
| | 中旬 | | | | |
| | 下旬 | | | 24日 | 第1回北九州市との連携会議(放課後児童クラブ) |
| | | | | 25日 | 第7回芦屋町との連携会議 |
| 12月 | 上旬 | 1日 | 第3回地域教育実践研究センター運営委員会 | 7日 | 第8回芦屋町との連携会議 |
| | 中旬 | | | | |
| | 下旬 | | | 21日 | 第3回北九州・下関まなびとびあWG(COC+) |
| 1月 | 上旬 | | | | |
| | 中旬 | | | | |
| | 下旬 | | | | |
| 2月 | 上旬 | 8日 | 第1回地域活動推進WG | | |
| | 中旬 | | | 13日 | 第2回折尾商連との意見交換会 |
| | 下旬 | | | 20日 | 北九州・下関まなびとびあ事業報告会(COC+) |
| 3月 | 上旬 | 1日 | 第1回地域教育実践研究センター外部評価委員会 | | |
| | 中旬 | 15日 | 第2回地域活動推進WG | 14日 | 第4回北九州・下関まなびとびあWG(COC+) |
| | 下旬 | 23日 | 第4回地域教育実践研究センター運営委員会 | 30日 | 第9回芦屋町との連携会議 |

2. 地域教育実践研究センター外部評価委員会報告

平成29年3月1日、第1回地域教育実践研究センター外部評価委員会（以下、「外部評価委員会」）を開催した。この第1回外部評価委員会では、平成28年度の事業実績に基づき、学外委員から意見等を徴した。

(1) 外部評価委員会の構成員

| 職名等 | | 氏名 |
|------|-------------------------------|-------|
| 委員長 | 地域教育実践研究センター 所長 | 古城 和子 |
| 副委員長 | 地域教育実践研究センター 副所長 | 澤田小百合 |
| 学外委員 | 芦屋町 企画政策課企画係 係長 | 水摩 秀徳 |
| | 北九州商工会議所 産業振興部 部長 | 原田 健二 |
| | 北九州市立八幡小学校 校長 | 藏内 保明 |
| | 北九州市小倉社会事業協会 北方地域子育て支援センター 所長 | 大塚 友江 |
| | 協同組合折尾商連 事務局長 | 桑原 正樹 |
| 学内委員 | 九州女子大学 家政学部 人間生活学科長 | 西田真紀子 |
| | 九州女子大学 人間科学部 特任教授 | 佐方はるみ |
| | 九州女子大学 共通教育機構 准教授 | 河原木有二 |
| | 九州女子短期大学 専攻科長 | 津山 美紀 |
| | 九州女子大学・九州女子短期大学 事務局長 | 植田 武志 |

(2) 学外委員の意見

| 学外委員 | 意見 |
|--------------|---|
| 芦屋町 | <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度の前半は、何を連携するか貴大学と協議を重ねることが中心だった。幾つかの連携事業を実施する中、若い学生が地域に入ることで町の活性化に繋がった。 硬筆教室の参加者は、大学は敷居が高い印象があったと述べていたが、また次年度も引き続き硬筆教室を実施して欲しいと好評であった。 今後も貴大学との連携について大きく期待をしている。 |
| 北九州商工会議所 | <ul style="list-style-type: none"> 文系インターンシップについては2年目に入り、定着してきたと感じている。 平成28年度は、課題解決型のインターンシップを初めて試みた。平成29年度も実施予定であり、「若者から見た北九州の魅力」をテーマに現在企画中であり、貴大学の学生にも是非ご参加いただきたい。 |
| 北九州市立小学校 | <ul style="list-style-type: none"> 学生には北九州市の教員を是非とも目指していただき、学校現場を活用して経験を積んでもらいたい。 学校図書館運営のボランティア等として、学生を派遣していただくのと有り難い。 ひまわり学習塾の指導員の確保について課題を抱えているため、学生に活用していただきたい。 |
| 北九州市小倉社会事業協会 | <ul style="list-style-type: none"> 学生はグリーンティーチャーの経験がとても活かされていると感じている。 学生には、グリーンティーチャーやボランティアで現場の厳しさを経験し、就職前の不安を解消してもらいたい。 現場では、学生に来てもらうことが活力となっている。今後も密接に貴大学と連携していきたい。 |
| 協同組合折尾商連 | <ul style="list-style-type: none"> 商店街は、地域の活性化について重要視している。学生には地域の行事等で数多く参加してもらっているが、ただ参加するのではなく、地域の人の考えや何のために行事を実施するのか理解して欲しいと考えている。 折尾まつりでは、学生に実行委員として参加してもらい、当日の司会等もやってもらっている。この経験を大学祭等で活かしてもらいたい。 |

活動日誌

担当教員 ()

| | | | | | |
|-----------|--|-----|---|------|--|
| 学部・学科(専攻) | | 学年 | 年 | 学籍番号 | |
| 氏名 | | 派遣先 | | | |

| | |
|-----------|-------------------------------|
| 第 回 | 平成 年 月 日() 時 分～ 時 分(実働 時間 分) |
| 活動・学修内容 | |
| 感想・印象的な事柄 | |
| 反省点・課題 | |
| 検 印 | |

| | |
|-----------|-------------------------------|
| 第 回 | 平成 年 月 日() 時 分～ 時 分(実働 時間 分) |
| 活動・学修内容 | |
| 感想・印象的な事柄 | |
| 反省点・課題 | |
| 検 印 | |

平成28年度地域教育実践研究センター運営委員会 構成員

| 所 属 | 氏 名 |
|----------------------|-------------------|
| 地域教育実践研究センター 所長 | 古城 和子 |
| 地域教育実践研究センター 副所長 | 澤田小百合 |
| 教務部長 | 奥田 俊博 |
| 学生部長(家政学部/栄養学科) | 巴 美樹 |
| 家政学部/人間生活学科 | 西田真紀子 |
| 人間科学部/人間発達学科 人間発達学専攻 | 鎌田 義彦・神代 明・春高 裕美 |
| 人間科学部/人間発達学科 人間基礎学専攻 | 大島 まな |
| 共通教育機構 | 河原木有二・細井 陽子・山下 高之 |
| 子ども健康学科 | 大江 康夫 |
| 専攻科/子ども健康学専攻 | 中村 智子 |
| 事務局長 | 植田 武志 |
| 教務・入試課長 | 重田 勝弘 |
| 地域教育実践研究センター | 松田裕次郎 |

平成28年度地域活動推進ワーキンググループ 構成員

| 所 属 | 氏 名 |
|----------------------|-------------|
| 地域教育実践研究センター 所長 | 古城 和子 |
| 地域教育実践研究センター 副所長 | 澤田小百合 |
| 家政学部/人間生活学科 | 西田真紀子 |
| 人間科学部/人間発達学科 人間発達学専攻 | 佐方はるみ・春高 裕美 |
| 人間科学部/人間発達学科 人間基礎学専攻 | 矢崎 美香 |
| 専攻科/子ども健康学専攻 | 中村 智子 |
| キャリア支援課 | 竹内 千絵 |
| 地域教育実践研究センター | 松田裕次郎 |

編 集 後 記

本誌は、平成28年度に九州女子大学・九州女子短期大学、および地域教育実践研究センターで実施した地域連携事業を皆様にご報告するため、発行いたしました。

地域教育実践研究センターは、設立2年目の組織ではありますが、皆様のご支援とご協力の下、各方面へ連携事業が広がり、その内容も拡充しています。平成28年度は、芦屋町との連携事業を始め、北九州市や北九州商工会議所との連携事業等、新たな事業も始動し、積極的に取り組んでまいりました。また、組織として、連携事業の客観性を担保しつつ、一層の改善に資するため、外部評価委員会を新たに設置し、自己点検・評価活動に繋げました。

本誌を契機として、皆様と新たな連携事業を実施できることを期待するとともに、本学の地域連携活動、および地域貢献活動のさらなる発展を目指していきます。

地域教育実践研究センター 所長 古城 和子

平成28年度 地域連携事業報告書

発 行：平成29年3月31日

編 集：学校法人福原学園 九州女子大学・九州女子短期大学
地域教育実践研究センター

〒807-8586 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1

Tel：093-693-3118 Fax：093-693-8203

E-mail：chiiki-c@fains.jp

